29　　の真の姿　　　　　　　　　読解のつぼ③　敬語で人物関係を把握する

昔、にといふあり。Ａいみじく貴くおはしければ、帝、「かの聖の姿をに書きとらん」とて、絵師三人をⓐ遣はして、「もし一人しては、書きふる事もあり」とて、三人して面々に写すべき由①仰せ含められて、②遣はさせ給ふに、三人の絵師、聖のもとへⓑ参りて、③かくをりてまうでたる由申しければ、「しばし」と言ひて、法服の装束してⓒ出であひ給へるを、④三人の絵師、並びて筆をさんとするに、聖、「しばらく。我がまことの影あり。それを見て書き写すべし」とありければ、聖の御顔を見れば、大指のにて額の皮をさし切りて、左右へ引きけてあるより、のの顔をさし出でたり。一人の絵師は十一面観音と見る。一人の絵師はと拝み奉りける。おのおの見るままに⑤写し奉りて、持て参りたりければ、帝、ⓓ驚き給ひて、の使ひを⑥やらせ給ひて問はせ給ふに、かいつやうにしてⓔせ給ひぬ。

それよりぞ「Ｂただ人にてはおはせざりけり」とⓕ申しあへりける。

* 語注

面々に＝それぞれ別々に。

宣旨＝天皇の勅命。

法服の装束＝僧侶の正装。

大指＝親指。

【原文】

昔、唐に宝志和尚といふ聖あり。いみじく貴くおはしければ、帝、「かの聖の姿を影に書きとらん」とて、絵師三人を遣はして、「もし一人しては、書き違ふる事もあり」とて、三人して面々に写すべき由仰せ含められて、遣はさせ給ふに、三人の絵師、聖のもとへ参りて、かく宣旨を蒙りてまうでたる由申しければ、「しばし」と言ひて、法服の装束して出であひ給へるを、三人の絵師、並びて筆を下さんとするに、聖、「しばらく。我がまことの影あり。それを見て書き写すべし」とありければ、聖の御顔を見れば、大指の爪にて額の皮をさし切りて、左右へ引き退けてあるより、金色の菩薩の顔をさし出でたり。一人の絵師は十一面観音と見る。一人の絵師は聖観音と拝み奉りける。おのおの見るままに写し奉りて、持て参りたりければ、帝、驚き給ひて、別の使ひをやらせ給ひて問はせ給ふに、かい消つやうにして失せ給ひぬ。

それよりぞ「ただ人にてはおはせざりけり」と申しあへりける。

問一　二重線部ⓐ〜ⓕの敬語表現は、誰に対する敬意を含んでいるかを選べ。〈２点×６〉

　ア　宝志和尚（聖）　　イ　帝　　ウ　絵師たち　　エ　人々　　オ　作者

　ⓐ〔　　　〕　ⓑ〔　　　〕　ⓒ〔　　　〕　ⓓ〔　　　〕　ⓔ〔　　　〕　ⓕ〔　　　〕

問二　波線部Ａ・Ｂにある「おはす」は、誰から誰に対する敬意を表しているか。問一の選択肢を用いて答えよ。〈２点×２〉

　Ａ〔　　　から　　　〕　Ｂ〔　　　から　　　〕

問三　傍線部①・②を現代語訳せよ。〈４点×２〉

　①〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

　②〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　傍線部③・⑤を、省略されている人物名を明らかにしながら現代語訳せよ。〈７点×２〉

　③〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

　⑤〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部④とあるが、帝はなぜ三人もの絵師を派遣したのか。簡潔に答えよ。〈７点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部⑥の二つの助動詞「せ」の説明として最も適当なものを選べ。〈５点〉

　ア　二つとも〈尊敬〉　　イ　初めが〈尊敬〉、後が〈使役〉

ウ　二つとも〈使役〉　　エ　初めが〈使役〉、後が〈尊敬〉

〔　　　〕

【解答】

問一　ⓐ＝イ　ⓑ＝ア　ⓒ＝ア　ⓓ＝イ　ⓔ＝ア　ⓕ＝ア〈２点×６〉

問二　Ａ＝オからア　Ｂ＝エからア〈２点×２〉

問三　①＝言い含めなさって、

　　　②＝派遣なさると、〈４点×２〉

問四　③＝このような勅命を帝からいただいて聖のもとへ参上した旨を絵師が聖に申し上げたところ、

　　　⑤＝絵師たちは聖の姿を写し申し上げて、帝のもとに（絵を）持って参上したところ、〈７点×２〉

問五　大切な聖の像を書き損じるわけにはいかないから。〈７点〉

問六　イ〈５点〉

【現代語訳】

昔、唐に宝志和尚という聖がいた。たいそう尊くいらっしゃったので、帝は、「あの聖の姿を絵に描き取ろう」と思って、絵師三人を派遣なさって、「もし一人では、書き違うこともある（だろう）」と思って、三人でそれぞれ別々に写せという旨を言い含めなさって、派遣なさると、三人の絵師は、聖のもとに参上して、このような勅命を（帝から）いただいて（聖のものとへ）参上した旨を（絵師たちが聖に）申し上げたところ、「しばらく（待て）」と（聖は）言って、僧侶の正装の格好をしてご面会になったので、三人の絵師は、並んで筆をおろそうとするが、聖が、「しばらく（待て）。私の本当の姿がある。それを見て描き写せ」と言ったので、（絵師が）聖のお顔を見ると、親指の爪で額の皮を指して切って、左右に引き離して開いた所から、金色の菩薩様の顔を表に出した。一人の絵師は（その顔を）十一面観音と見る。（別の）一人の絵師は聖観音と（見て）拝み申し上げた。（絵師たちは）それぞれ見るままに（姿を）写し申し上げて、（帝のもとに絵を）持って参上したところ、帝は、驚きなさって、別の使者を派遣なさって（その使者に）尋ねさせなさるが、（聖は）かき消すようにして（姿を）お消しになった。

それから「（聖は）ただの者ではいらっしゃらないことよ」と（人々は）申し合ったということである。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　次の敬語表現は、誰に対する敬意を表しているか、それぞれ答えよ。

①「かく宣旨を蒙りてまうでたる由申しければ」（４行目）

Ａ「蒙り」、Ｂ「まうで」、Ｃ「申し」

②「写し奉りて、持て参りたりければ」（９～10行目）

Ａ「奉り」、Ｂ「持て参り」

問２　「書き写すべし」（６行目）の助動詞「べし」の文法的意味を答えよ。

問３　三人はそれぞれどのような姿を書き写したのか。本文中から抜き出せ。

【補充問題解答】

問１

①Ａ：帝　Ｂ：宝志和尚（聖）　Ｃ：宝志和尚（聖）

②Ａ：宝志和尚（聖）　Ｂ：帝

問２　命令

問３　金色の菩薩」「十一面観音」「聖観音」